

鎌 総 第 1411号

令和5年(2023年)8月21日

鎌倉市議会議長 様

鎌倉市長 松 尾 崇



文書質問への回答について

標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。



事務担当

総務課総務担当 (内線2243)

議会受付番号	文書質問第6号
質問者	長嶋竜弘 議員
答弁する者	市長（健康福祉部新型コロナウイルスワクチン接種担当・市民健康課）

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第7条第3項の規定に基づく文書質問第6号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

資料のとおり、鎌倉市の救急搬送数と死亡者数は、令和4年及び令和5年1月から6月のデータは、令和2年比で見ると異常な増加傾向の数値である。

この救急搬送数・死亡者数の増加傾向はワクチンの接種期間とおおむね連動している。この事についてどのように考えるかお伺いする。

また、ワクチンとの因果関係を横に置いたとしても異常な増加傾向を示しているので、この要因について調べ、わかる事は明らかにして、市民皆様の命と健康を守る為に、実施できる施策を検討して、緊急に対応するべきだと考えるがいかがか。

2 質問の理由

異常な状況であり緊急に対応する必要があるので。

3 答弁

救急搬送数や死亡者数の推移とワクチン接種との因果関係については、本市として分析することは困難であるものと認識しています。しかしながら、国では、予防接種法第12条第1項の規定に基づく、ワクチン接種後に生じうる副反応を疑う事例について、因果関係が不明な場合も含めて、医療機関等に報告を求め広く収集しており、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会において、それらの情報をもとに接種体制の継続の可否についても検討を行ってきており、本市では国の指示に基づき接種を継続しているものです。

また、救急搬送数や死亡者数の傾向の要因についても同様に、本市として調査、分析することは困難ですが、国立感染症研究所感染症疫学センターが、日本における新型コロナウイルス感染症流行期における死亡者数について、詳細な分析をしていくことを検討していることから、その動きを注視してまいります。